

# 第 1 回

## 学生生活実態調査結果報告書

令和 2 年度

桐生大学・桐生大学短期大学部

# 目 次

|                        |     |
|------------------------|-----|
| 序 章 調査の概要              | 1   |
| 第Ⅰ章 基本的事項              |     |
| 1～4. 調査対象人数及び回収率       | 4   |
| 第Ⅱ章 学業・学習環境            |     |
| 5～7. 学習場所及び学習時間について    | 5～6 |
| 8. 学習環境について            | 6   |
| 9. 図書館の利用頻度            | 7   |
| 10. 図書館の主な用途           | 7   |
| 11. 図書の利用              | 8   |
| 12. 図書館の1日の利用時間        | 8   |
| 13. 図書館の主な利用時間帯        | 8   |
| 14. 図書館の開館時間           | 9   |
| 第Ⅲ章 課外活動               |     |
| 15. サークル加入の有無          | 10  |
| 16. サークル加入理由           | 10  |
| 17. 1週間の平均活動時間         | 11  |
| 18. サークル活動と学業          | 11  |
| 19. サークル未加入の理由         | 12  |
| 20. 大学祭の参加について         | 12  |
| 21. 大学祭へ参加しなかった理由      | 12  |
| 第Ⅳ章 ボランティア活動           |     |
| 22. ボランティア経験の有無        | 13  |
| 23. ボランティア活動に関する情報入手手段 | 13  |
| 24. ボランティア活動の内容        | 14  |
| 25. ボランティア活動の参加数       | 14  |
| 26. ボランティア活動の感想        | 14  |
| 27. ボランティア活動への興味       | 15  |
| 第Ⅴ章 学生生活               |     |
| 28～29. 喫煙について          | 16  |
| 30. 悩みの有無              | 17  |
| 31. 悩みの内容              | 17  |
| 32. 相談相手               | 17  |
| 33～35. 保健室について         | 18  |
| 第Ⅵ章 進路(就職・進学)          |     |
| 36. 将来の進路希望            | 19  |
| 37. 将来の希望職種            | 19  |
| 38. 就職希望地域             | 20  |

|                          |       |
|--------------------------|-------|
| 39. 就職のサポート体制            | 20    |
| 40. 相談相手                 | 20    |
| 41. 希望する就職支援             | 21    |
| 第Ⅶ章 住居・通学                |       |
| 42～43. 居住形態              | 22    |
| 44. 現住所からの通学距離           | 23    |
| 45. 交通手段について             | 23    |
| 46. 駐車場について              | 24    |
| 47. 片道の所要時間について          | 24    |
| 第Ⅷ章 アルバイト                |       |
| 48. アルバイトの有無及び頻度         | 25    |
| 49. アルバイトの内容             | 25    |
| 50. 1 か月の平均時間            | 26    |
| 51. アルバイトに関する情報入手手段      | 26    |
| 52. アルバイトと学業             | 26    |
| 53. アルバイトをしない理由          | 27    |
| 54. アルバイトをした感想           | 27    |
| 第Ⅸ章 食生活                  |       |
| 55. 朝食は摂っていますか           | 28    |
| 56～58. 朝昼夕の食事場所について      | 28～29 |
| 59. レストラン(学食)の1週間の利用頻度   | 30    |
| 60. 利用しない理由              | 30    |
| 61. エレガンテ(売店)の1週間の利用頻度   | 30    |
| 62. 利用しない理由              | 31    |
| 第Ⅹ章 その他                  |       |
| 63. 外部者の出入りによる身の危険や不安の有無 | 32    |
| 64. ジェンダーバイアス            | 32    |
| 65. 大学から連絡方法             | 33    |
| 66. その他                  | 33    |
| 巻末資料                     |       |
| 1. 委員会の構成メンバー            | 34    |
| 2. 総括                    | 35    |

# 桐生大学・桐生大学短期大学部教育組織概説図

|            |
|------------|
| 医療保健学部(4年) |
| 看護学科       |
| 栄養学科       |

|            |
|------------|
| 短期大学部(2年)  |
| 生活科学科      |
| アート・デザイン学科 |

|        |
|--------|
| 別科(1年) |
| 別科助産専攻 |

# 序章 調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、桐生大学・桐生大学短期大学部の学生の生活実態を把握し、今後の学生のための厚生施策の充実、教育・研究環境の改善及びサービスの向上等に役立たせるための資料を得ることを目的として実施した。

## 2. 調査の実施

学生へのより良いサービス向上等に資するため学生委員会において、調査内容の企画立案、調査票の作成を実施し、令和3年2月開催の大学運営評議会において、学生生活実態調査を実施することが承認されたことを受け実施した。

## 3. 調査の対象

令和3年2月1日現在で本学に在籍している全学生を対象とした。

ただし、休学者、研究生、聴講生及び科目等履修生の学生は除いた。

## 4. 調査の時期

令和3年2月9日(火)～3月12日(金)

## 5. 調査の方法

学生ポータルにて開始を案内し、Microsoft Formsにて実施した。対象者が設問に解答していく方式とした。

# 学生生活実態調査：調査結果要旨

2021年2月～3月、「学生生活実態調査」として、学生の経済的状況、学習状況、課外活動、生活全般、将来の希望進路についてアンケート調査を実施しました。

本調査では、708名の調査対象学生に対して214名から回答を得ました（回収率：30.2%）。学科別に見ると、栄養学科のみ過半数を超える回答（113/201：56.2%）が得られているものの、他は3割に満たないことから「代表性」に欠けており、本調査結果が本学学生全体の声を反映したデータとは言い難い結果です。一方、令和2年度はCOVID-19により教育活動の大きな変更・自粛が強いられ、極めて特異的な状況下での調査結果となっている。

**学修状況・学習環境**：多くの学生（171名、79.9%）が予習・復習を行っているが、予習・復習の時間は1週間2～5時間（68名、31.8%）と多いとは言えなかった。講義室・実習室への満足度は、118名（55.1%）の学生が「満足」・「ある程度満足」と回答しているのに対し、「不満」・「あまり満足していない」が43名（20.1%）あった。

**課外活動**：サークル加入者はほんの一部で、令和2年度はサークル活動も完全自粛だったので、数値は参考には適さないとされる。

**ボランティア活動**：ボランティア経験者は1/5だが、全体の1/3は希望していた。サークルや友人知人を通じての参加が多いが、経験者のほとんどが有意義であったと感じていることから、今後大学からの紹介を増やしていく必要があると考える。

**学生生活**：悩みごとがある学生は1/3だった。内容は進路・就職が多く、次いで学業成績、勉強の仕方が分からない、精神的な不安であった。相談するのは、学内外の友人・保護者が多いが、誰もいない学生も12名（5.6%）いた。保健室は認知されており（≧8割）、利用者の印象も良かった。

**進路**：資格系学科が多いことから、ほぼ全員が「就職」と答えていた。就職サポートでは、低学年が回答者の半数以上ということもあり、「どちらともいえない」回答が多かった。一方、良い・悪いもそれぞれ43名（20%）ずつ見られた。進路相談は家族・親戚、次いで担任・副担任だった。

**住居・通学**：自宅生が回答者の8割で、10km以上遠くから、自家用車で通学している学生が多かった。

**アルバイト**：半数の学生が「定期的」にしており、飲食業が6割で、月「20-30時間」が最も多かった。一方、「していない」学生は1/4だった。

**食生活**：6割近くが「毎日」朝食を摂食している一方、「摂らない」のも1/10見られた。昼食を「自宅」で摂る学生が学食利用より多く見られたが、令和2年度の遠隔授業状況下での特徴的な結果かもしれない。学食を「まったく利用しない」も5割以上いたが、学内の滞在時間を短縮する対策のために生じた事態かもしれない。売店（エレガンテ）を「まったく利用しない」も1/3いたが、同様の理由かと思われる。

**その他**：『本学は自由に外部の人が出入りできるようになっていますが、それによって身の危険や不安を感じた

ことがありますか』という問いに、「やや感じたことがある」「感じたことがある」と回答した学生は計 35 名(16.3%)いた。これは看過できない数字で、防犯に向け内容を把握する必要があると思われる。また、ジェンダーバイアスを感じたことがある学生は 46 名 (21.5%) おり、教職員の対応・言動にさらなる配慮が求められると言える。

# 第Ⅰ章 基本的事項

## 1～4. 調査対象人数・回収率

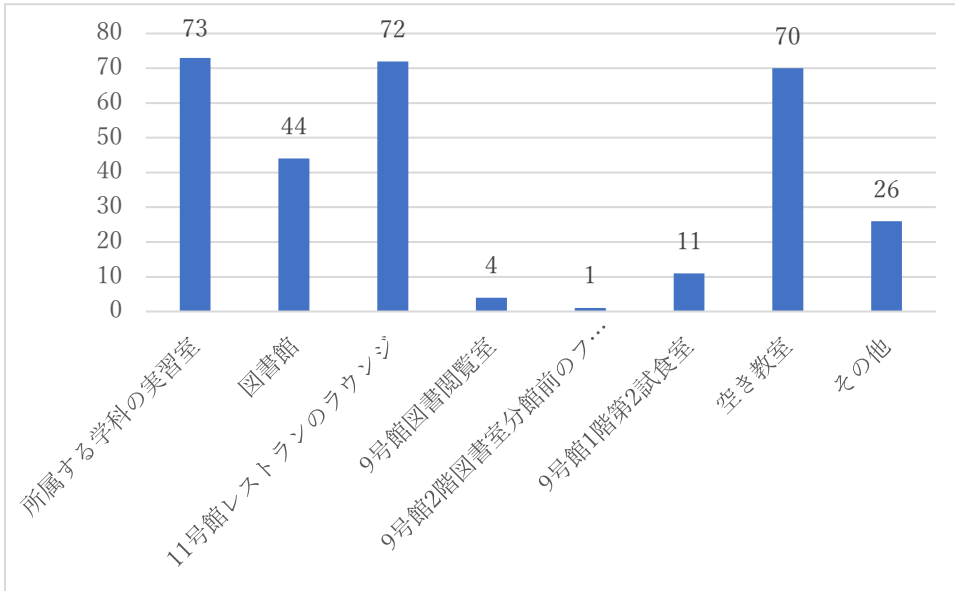
対象学生 708 人に対して、217 人からの回答を得た。回収率は、全体で 30.2%であった。全体の 30%の回収率ではあるが、本学学生生活の実態を十分に反映しているものと思われる。学科別では看護学科が 23.2%、栄養学科が 56.2%、別科助産専攻が 5.6%、生活科学科が 15.9%、アート・デザイン学科が 15.3%の回収率であった。

| 学科名        | 対象学生人数(人) | 回収数(人) | 回収率(%) |
|------------|-----------|--------|--------|
| 看護学科       | 315       | 73     | 23.2   |
| 栄養学科       | 201       | 113    | 56.2   |
| 別科助産専攻     | 18        | 1      | 5.6    |
| 生活科学科      | 63        | 10     | 15.9   |
| アート・デザイン学科 | 111       | 17     | 15.3   |
| 全体         | 708       | 214    | 30.2   |

## 第Ⅱ章 学業・学習環境

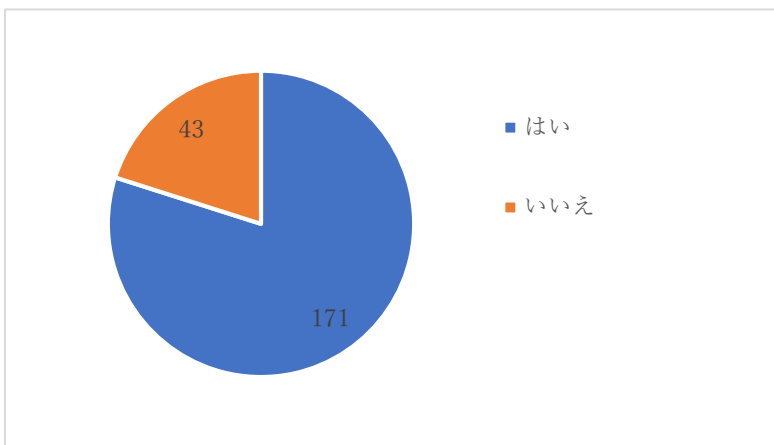
### 5. 学内ではどこで勉強していますか(複数回答可)

授業以外の空き時間の勉強場所として、所属する学科の実習室、11号館レストランのラウンジ、空き教室がトップ3であった。図書館についても44名(20.6%)の学生が利用していることがわかった。



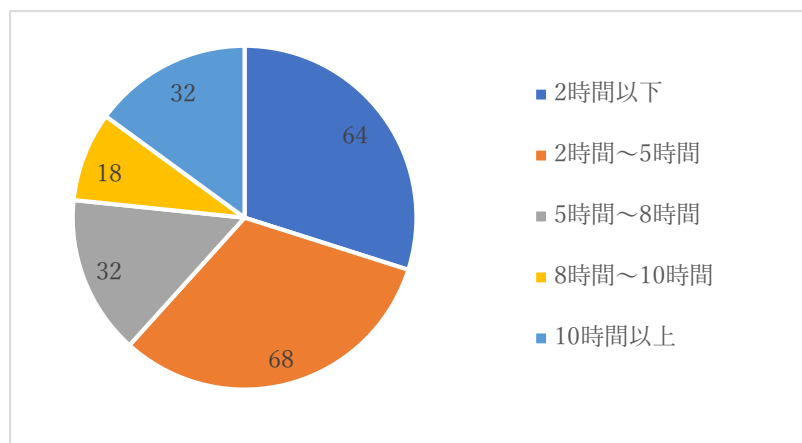
### 6. 予習・復習(作品制作などを含む)をしていますか

171名(79.9%)の学生が、予習・復習を行っていることから、学習への取り組みに対して積極的な学生が多いことが示唆された。



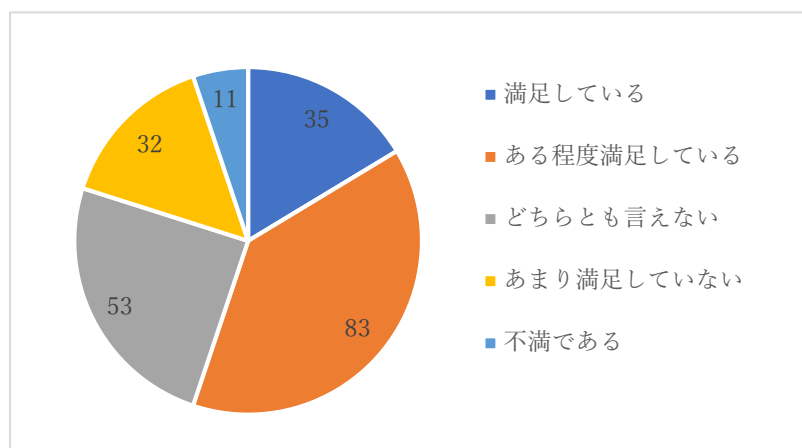
#### 7. 1 週間の予習・復習(作品制作などを含む)の合計時間について

2 時間～5 時間の回答が最も多く 68 名 (31.8%) で、8 時間以上勉強している学生も 50 名 (23.4%) であった。「2 時間以下」と答えた中には、質問 6 で「予習・復習をしていない」と答えた学生も含まれるため、多くの学生が 0 時間であることが考えられた。



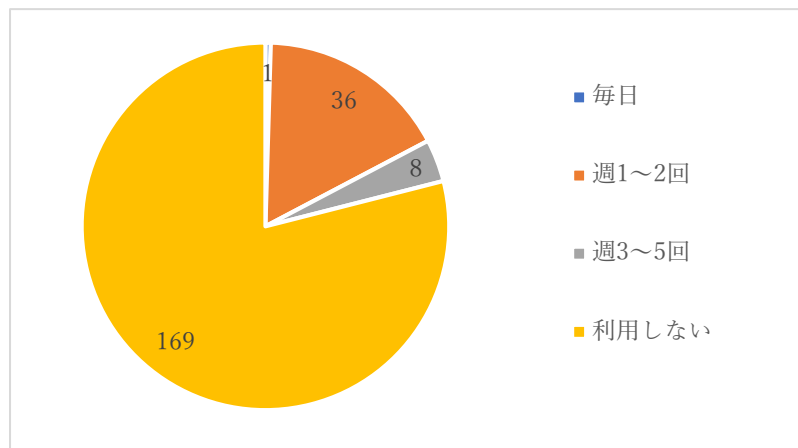
#### 8. 講義室・実験室などの教育環境の満足度について

118 名 (55.1%) の学生が満足・ある程度満足していると回答しているのに対し。不満・あまり満足していないと回答した学生が 43 名 (20.1%) であった。教育環境のどのあたりを満足していないかが今回の結果ではわからないため、今後調査を進めながら、必要に応じて改善をしていく必要がある。



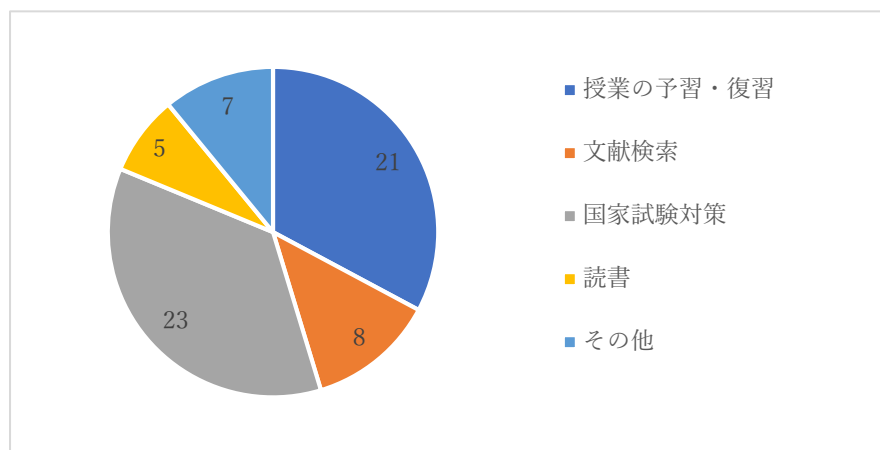
### 9. 図書館の利用頻度(週)について

169 名（78.9%）の学生が利用していないと回答した。質問 5 で、図書館以外の実習室や空き教室を利用しているため、図書館の利用者数が少なくなっていることが考えられる。利用していない学生から図書館の利用者数を増加させるためには、どのようにすれば良いか調査する必要がある。



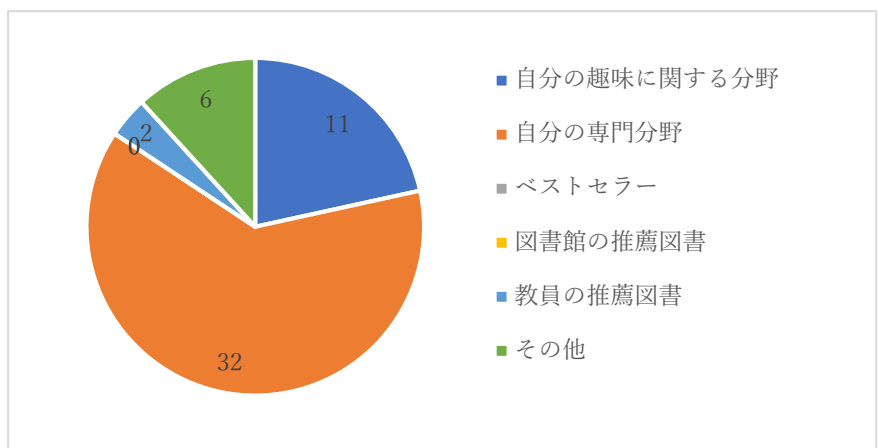
### 10. 利用目的について

国家試験対策、授業の予習・復習が上位を占めた。



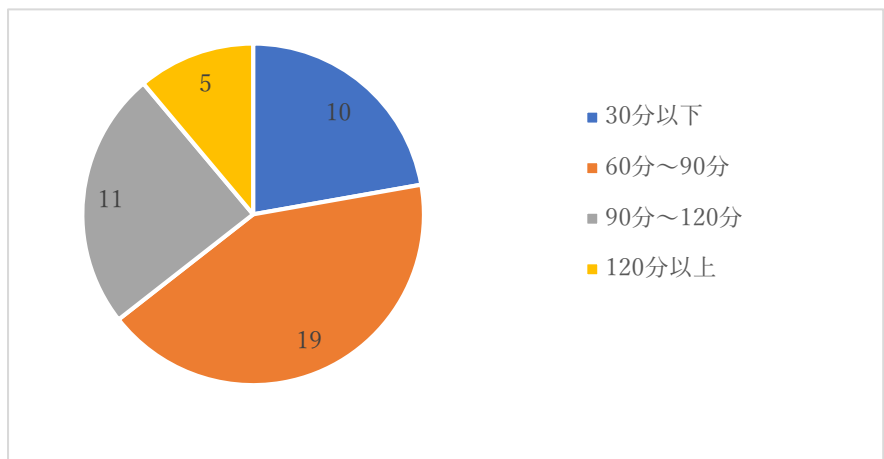
### 11. 図書の利用について

国家試験勉強や予習・復習で図書館を利用している学生が多いことから、自分の専門分野の図書利用が最も多かった（質問9の図書館を利用している学生45名中32名（71.1%））。また、自分の趣味に関する分野と答えた学生も11名（24.4%）いることがわかった。



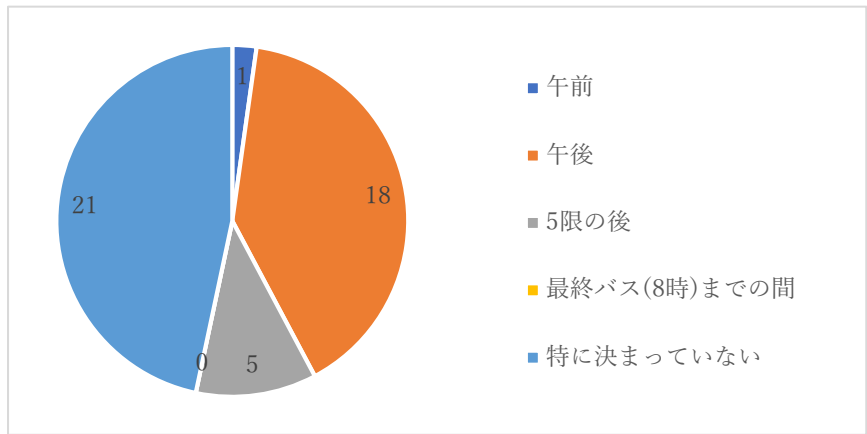
### 12. 図書館の1日の利用時間

60分～90分の利用が最も多く19名（42.2%）であった。また、5名（11.1%）の学生が120分以上と長時間利用していることがわかった。



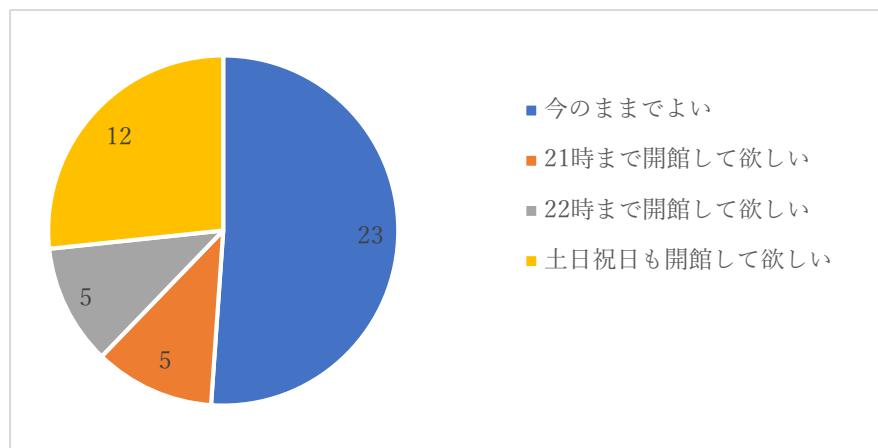
### 13. 図書館の主な利用時間帯について

21名（46.7%）の学生が「特に決まっていない」と答えていることから、質問12の結果を踏まえると、授業の空き時間やスクールバスの待ち時間に利用していることが予想された。



#### 14. 図書館の開館時間について

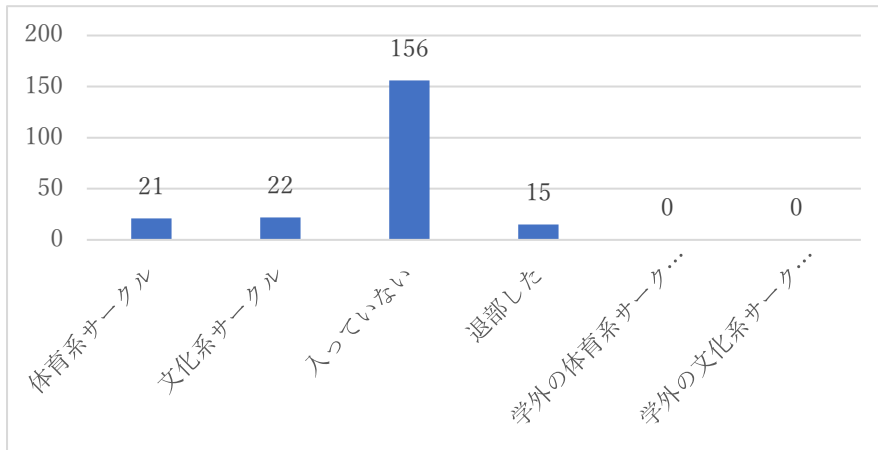
現在は 20 時までの開館となっているが、学生から 20 時以降や土日祝日の開館の要望と現状ままで良いとする回答がほぼ同数となっていることから、今後も回答における推移をみる必要がある。



# 第Ⅲ章 課外活動

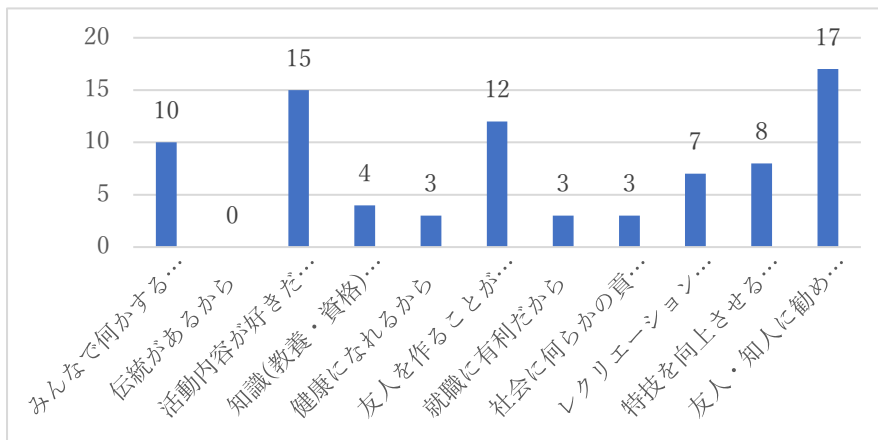
## 15. サークル加入の有無

20年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、例年通り各サークルによる募集活動が自粛されたため、未加入者が多いことが考えられる。



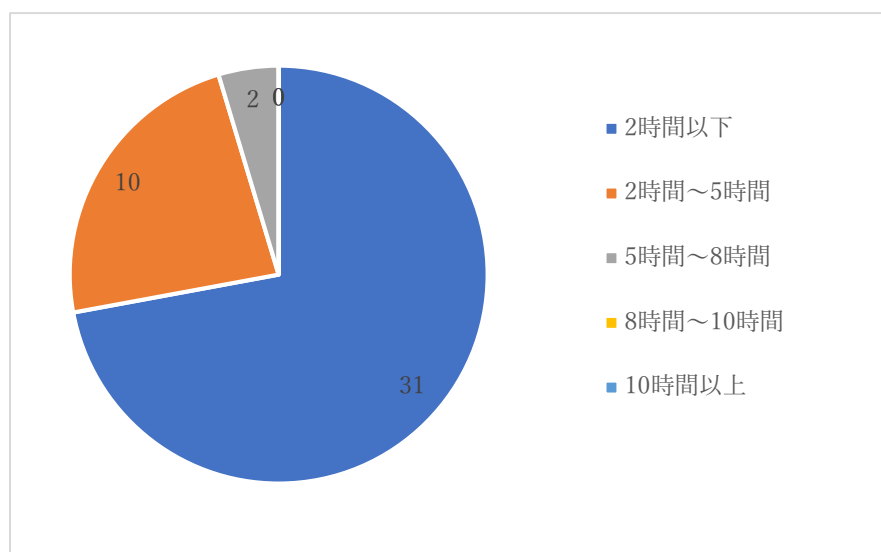
## 16. サークル加入理由(複数回答可)

友人・知人に勧められて加入する学生が多く、交友関係の新たな構築を期待していることがうかがえる。



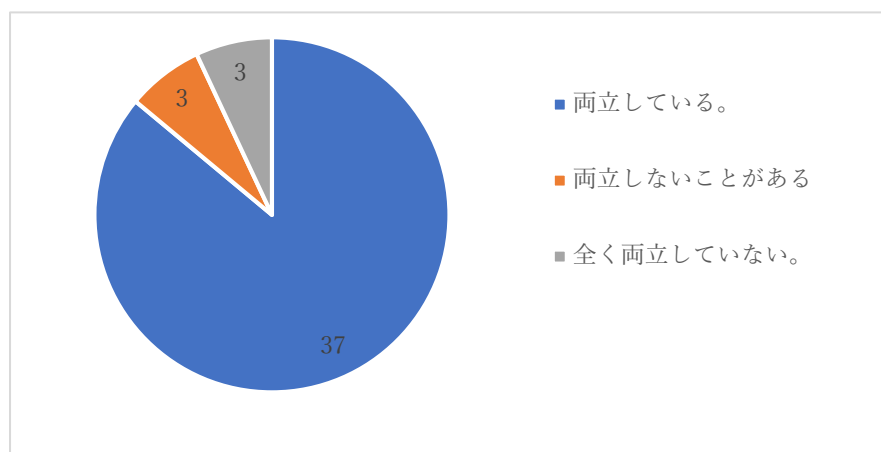
## 17. 一週間の平均活動時間

新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により、活動時間に制限があったため、引き続き活動時間を注視する必要がある。



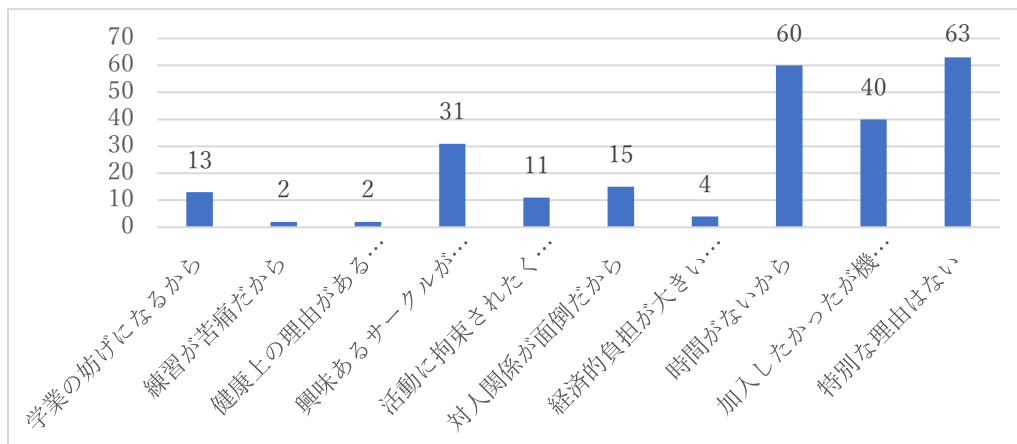
## 18. サークル活動と学業

20年度においては19年度以前と比較し、サークル活動をすることができなくなっていたため、両立していると回答している学生が多いことが予測される。21年度以降も引き続き調査の必要がある。



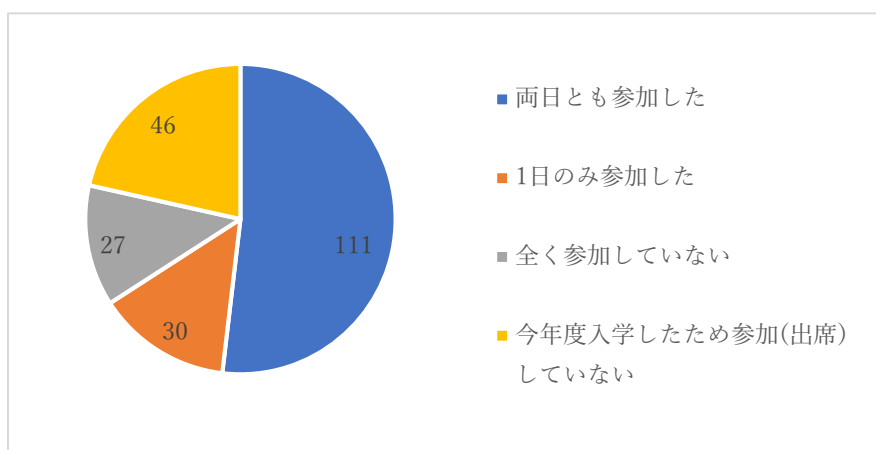
## 19. サークル未加入の理由(複数回答可)

以前よりサークル加入者が減少傾向にあることがあったため、「特別な理由はない」が多いことは予想していた。次点の「時間がない」は新型コロナウイルス感染症により後述の学習時間が多くなっていることから多少の影響があることが考えられる。



## 20. 大学祭の参加について

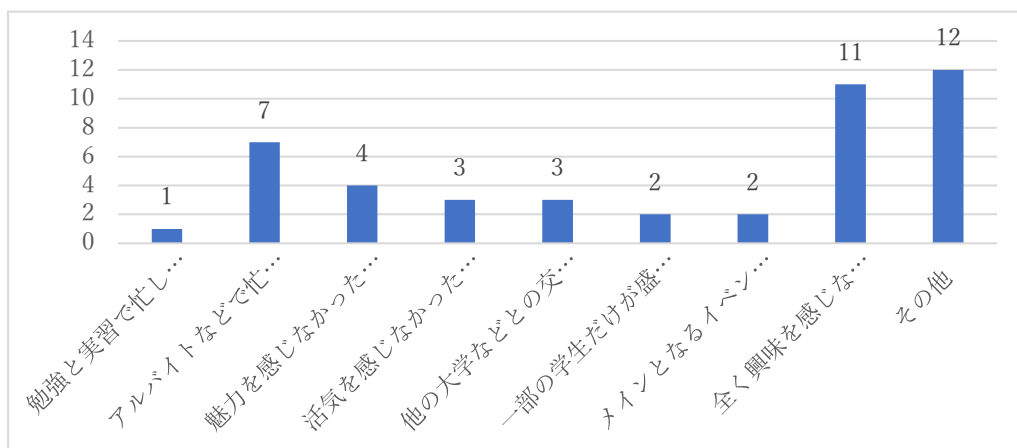
65%の学生が両日または一日のみでも参加していることから、参加人数自体は多いものと予想される。



## 21. 大学祭へ参加しなかった理由

全く興味を感じないとの回答が多く、学生にとって何に興味があるかを調査する必要がある。

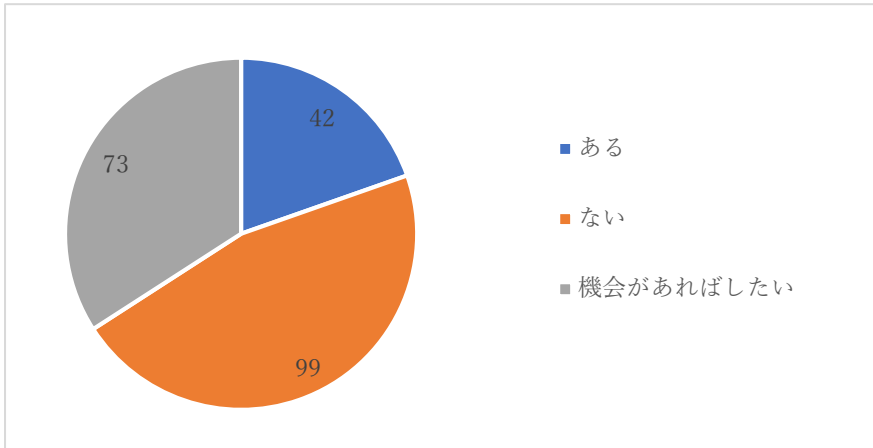
また、その他の回答については、体調不良との回答が多くあった。



## 第Ⅳ章 ボランティア活動

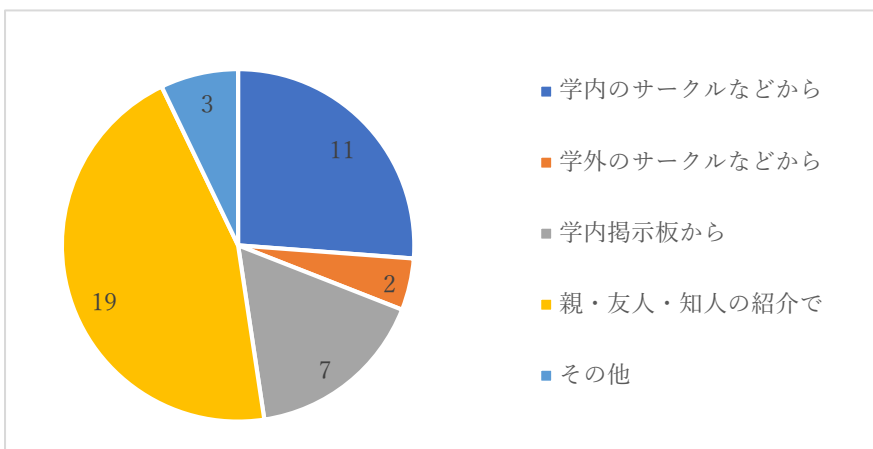
### 22. ボランティア経験の有無について

全体としてあるが 20%、ないが 46%、機会があればしたいが 34%と回答の結果となり、ボランティア活動に対する関心が低下している懸念がある。



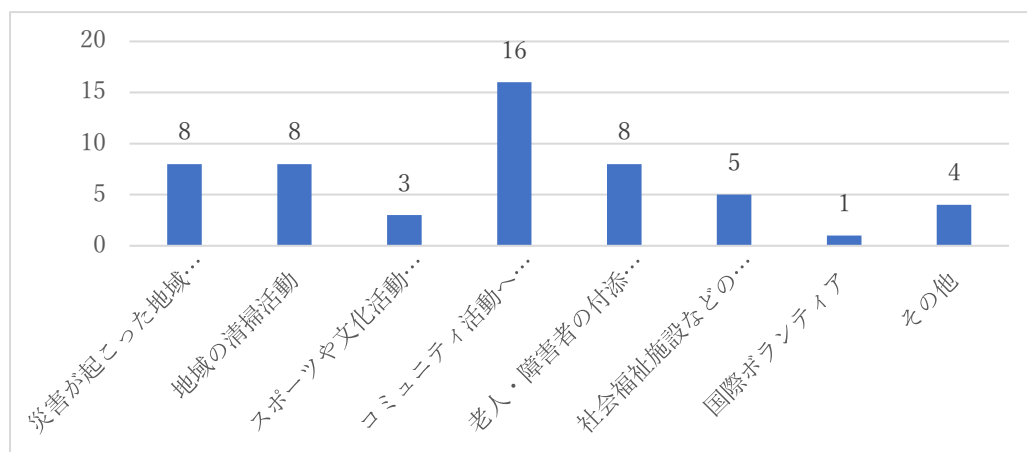
### 23. ボランティア活動に関する情報入手手段について

参加したことがある学生のうち 45%が親・友人・知人の紹介によりボランティア活動に従事していることが示唆されている。



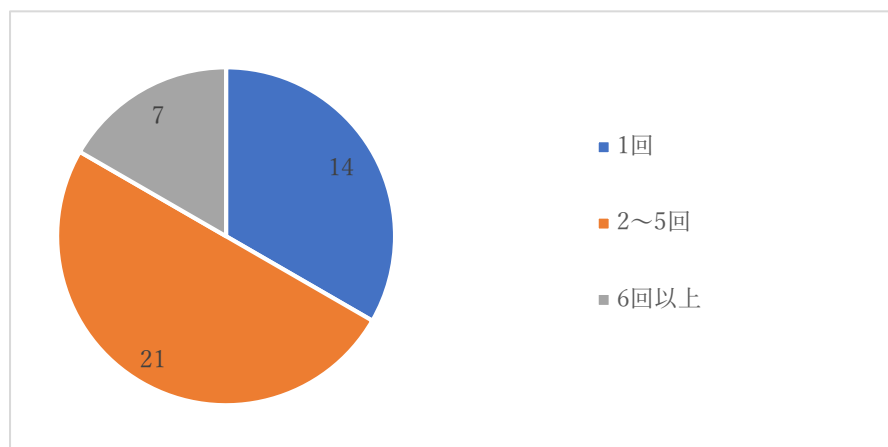
#### 24. ボランティア活動の内容について(複数回答可)

全体では、「コミュニティ活動への参加」が最も多く、「災害が起こった地域やその被災者の救援活動」、「地域の清掃活動」、「老人・障害者の付添(介護)など」が同数となった。



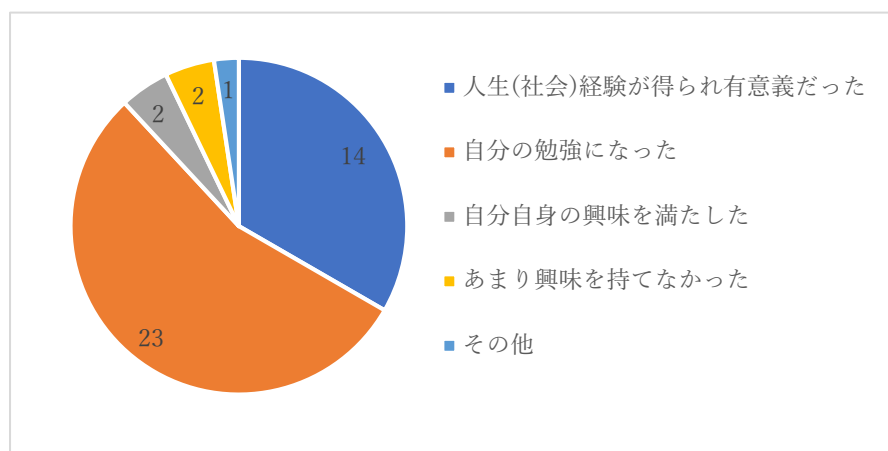
#### 25. ボランティア活動の参加数について

ボランティアに参加している学生の半数以上は複数回参加していた。



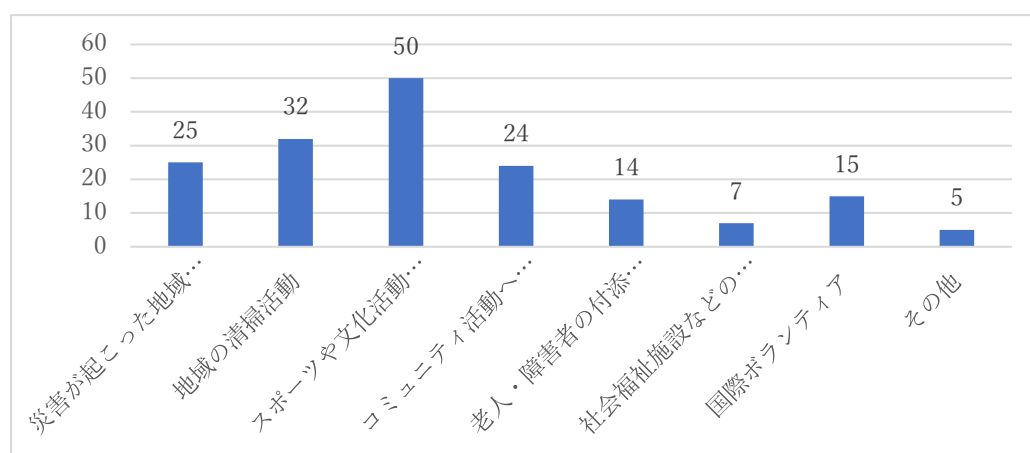
#### 26. ボランティア活動の感想について

ボランティア活動は自分の勉強になったが半数以上で、経験が得られ有意義も多かった。



## 27. ボランティア活動への興味について

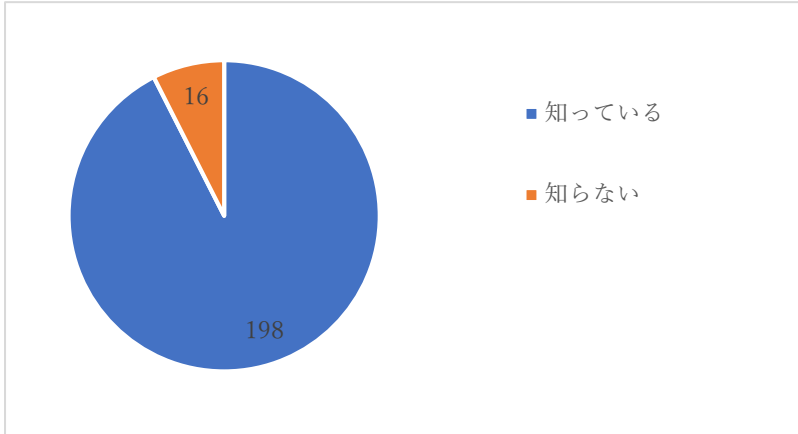
興味のあるボランティア活動はスポーツ・文化活動の支援が圧倒的に多く、次いで地域清掃、災害地域被災者支援、コミュニティ活動支援と続いていた。



## 第Ⅴ章 学生生活

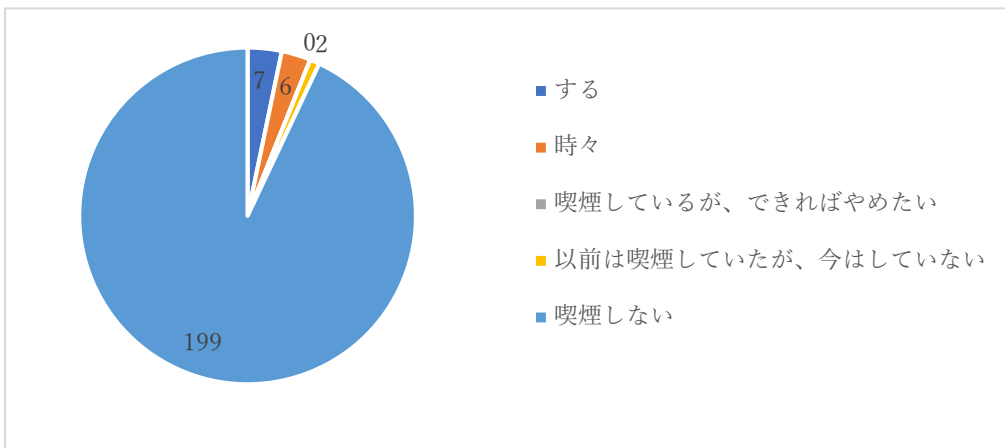
28. 学内は全面禁煙である事は知っていますか

学内全面禁煙はほとんどの学生が認知していた。



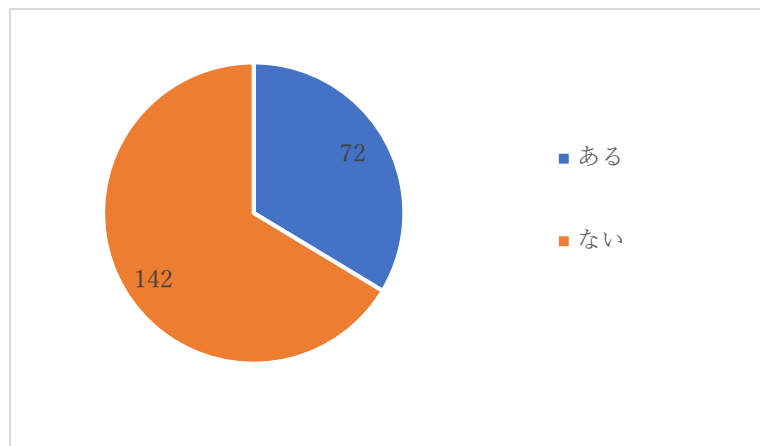
29. あなたは喫煙しますか

非喫煙者が圧倒的に多く、喫煙者は13名であった。



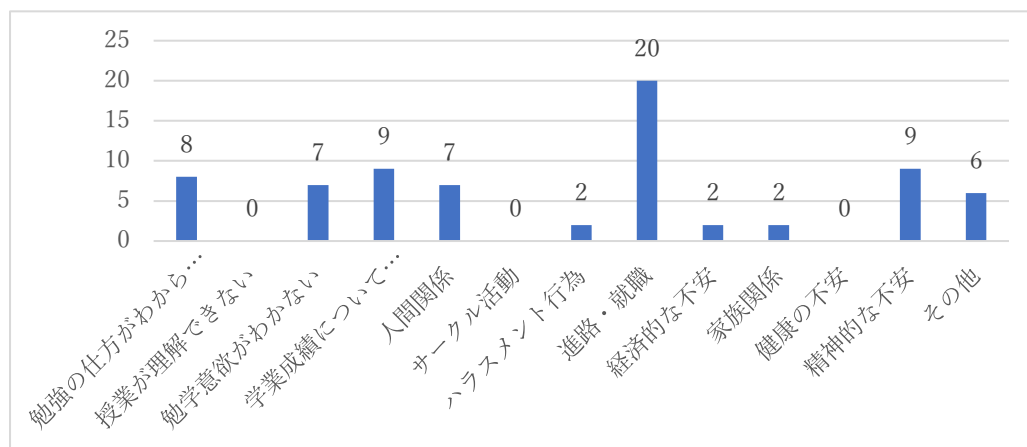
### 30. 悩みの有無について

何か悩みごとがある学生は 1/3 だった。



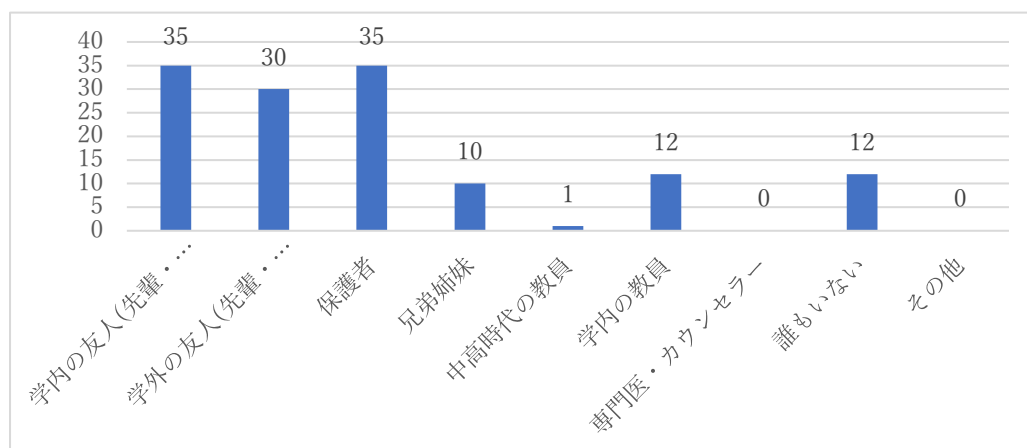
### 31. 悩みの内容について

悩みごとでは進路・就職が多く、次いで学業成績、勉強の仕方が分からない、精神的な不安がほぼ同数であった。



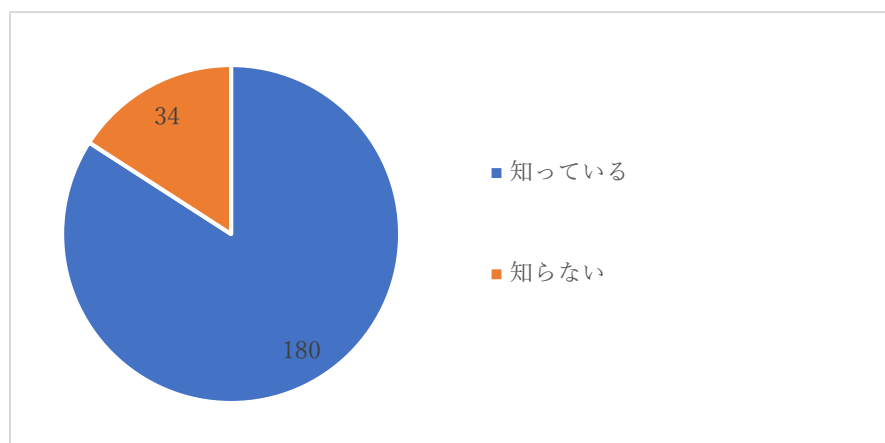
### 32. 相談相手について

誰に相談するのかという質問に、学内の友人・保護者が同数、それに近似する数学外の友人と回答が見られた。誰もいないという回答も 12 名あった。



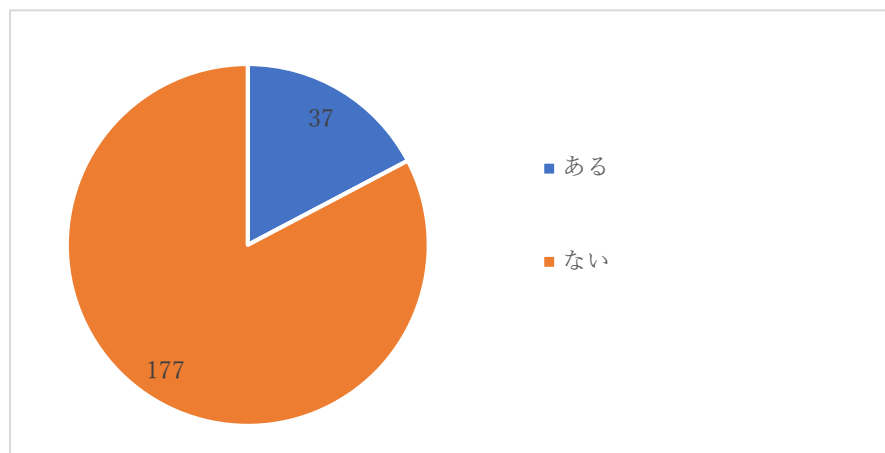
### 33. 保健室があることを知っていますか

8割以上の学生が保健室があることを知っていることから体調が悪いときの対処方法の一つとして保健室の活用があることが示唆された。



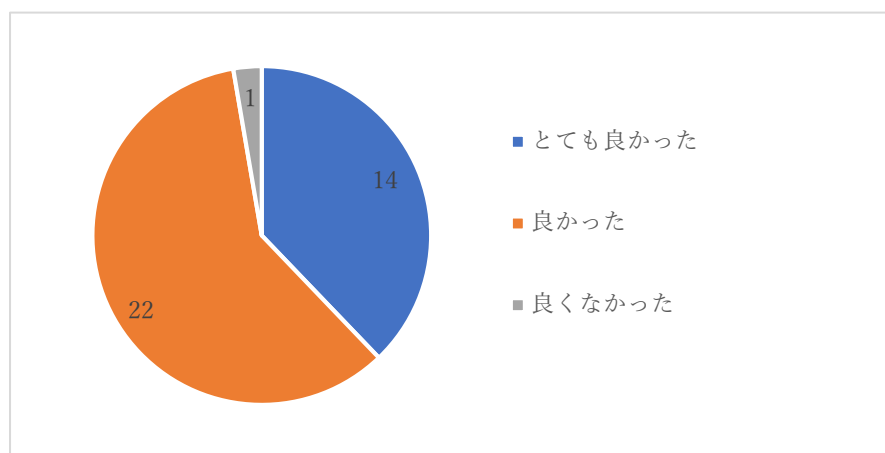
### 34. 保健室を利用したことはありますか

保健室を利用した学生は17%であった。どのような学生が利用したかは今回の調査ではわからなかった。



### 35. 保健室を利用したときの印象はどうでしたか

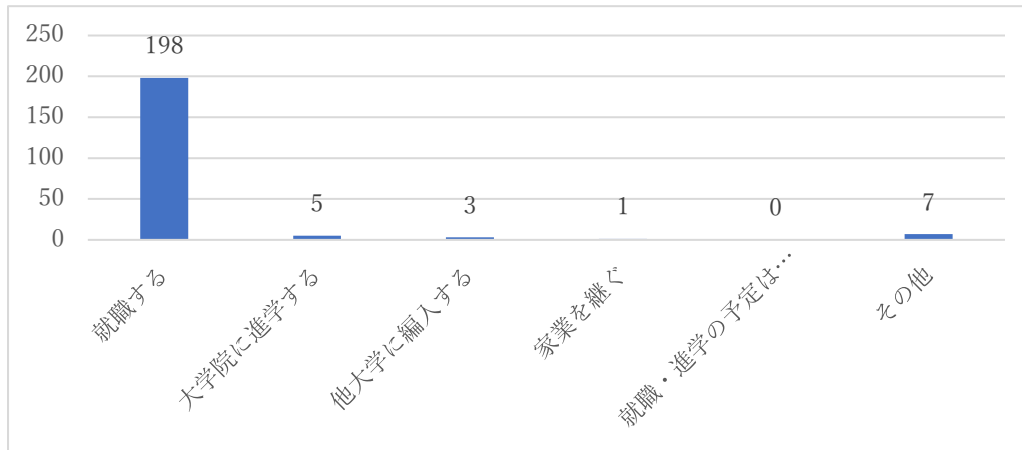
ほとんどの学生は良いと答え、保健室の環境や教員の対応が評価されたと考える。



## 第Ⅵ章 進路(就職・進学)

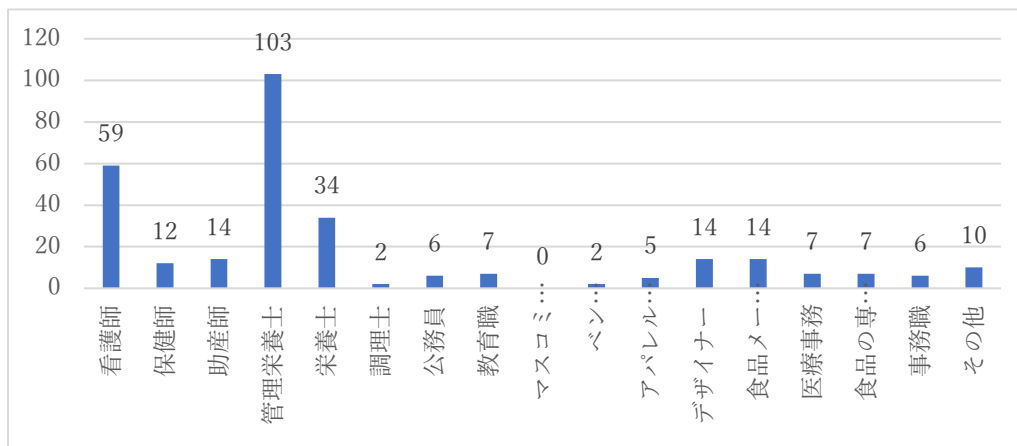
### 36. 将来の進路希望について

卒業後はどのような進路を考えていますか。⇒ほとんどの学生が就職を進路に考えている。(198名/214名、93%)。就職以外の進路先を考えている学生もあり、いずれも何らかの進路希望を持っている。



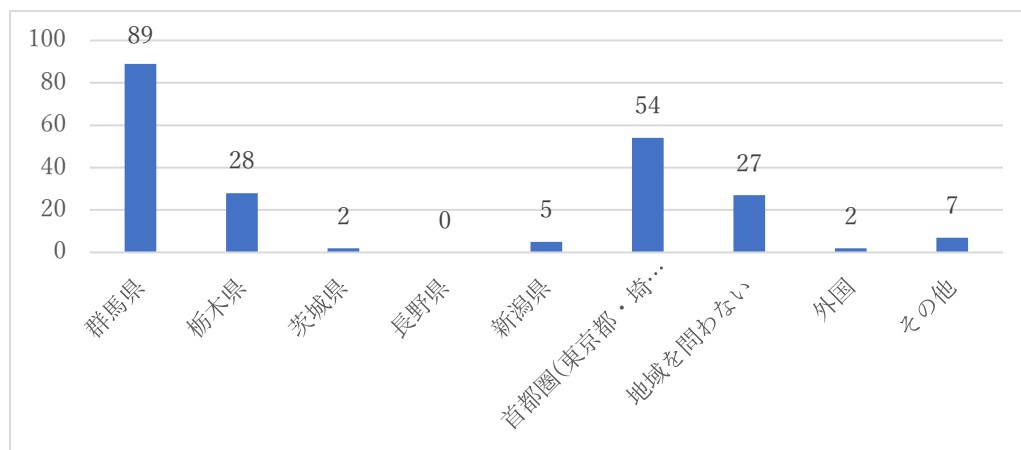
### 37. 将来の希望職種について（複数回答）

回答総数（計302）の内7割を超える回答数（75.8%）が、本学で取得する資格の職業に就くことを希望している。【看護師、保健師、助産師、管理栄養士、栄養士、医療事務 の合計229】



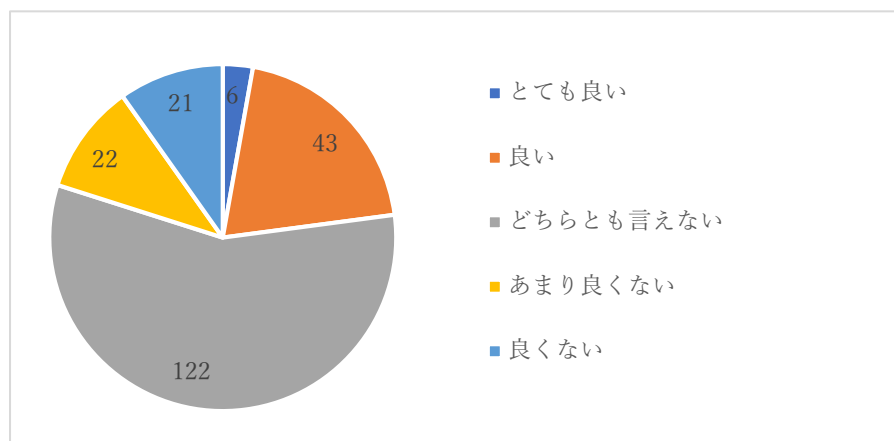
### 38. 就職希望地域について

就職希望先としては、群馬、首都圏、栃木が多い。



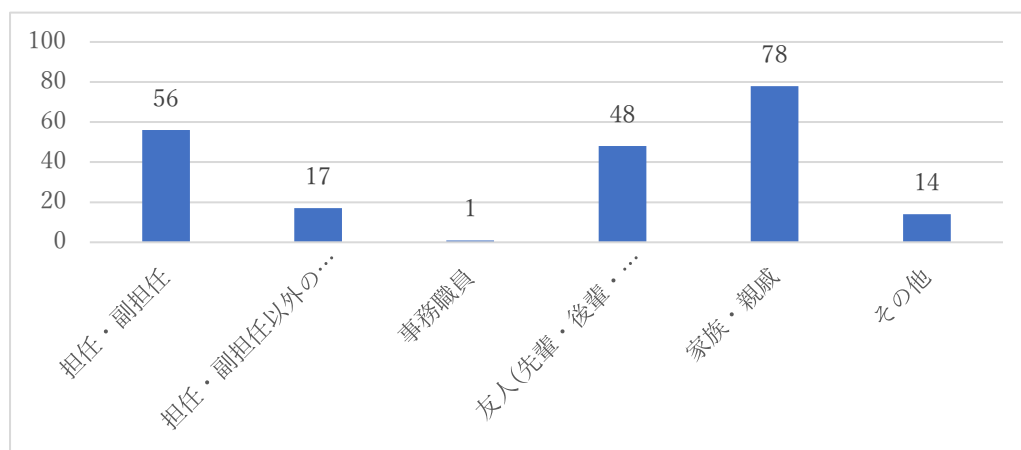
### 39. 就職のサポート体制について

就職サポート体制に関しては、アンケートに答えている学生が約 55%は 1、2、年生のため約 55%が「どちらとも言えない」と答えている。就職サポートに対して、「良い」「悪い」の意見は、ほぼ同数でわかれている。



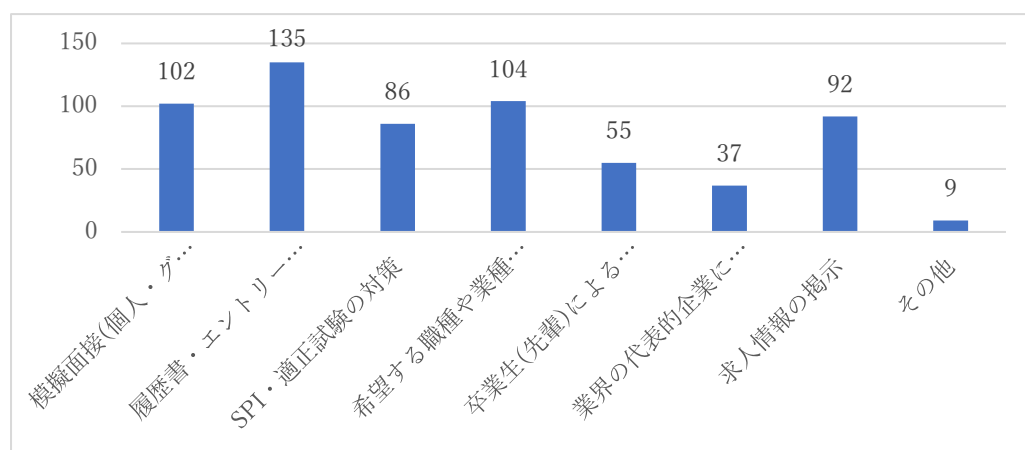
### 40. 相談相手について

就職は、担任、担任以外の教員、友人（先輩・後輩・業生を含む）など大学内関係者（55%以上）、家族（35%）に相談する人が多い。



#### 41. 希望する就職支援について

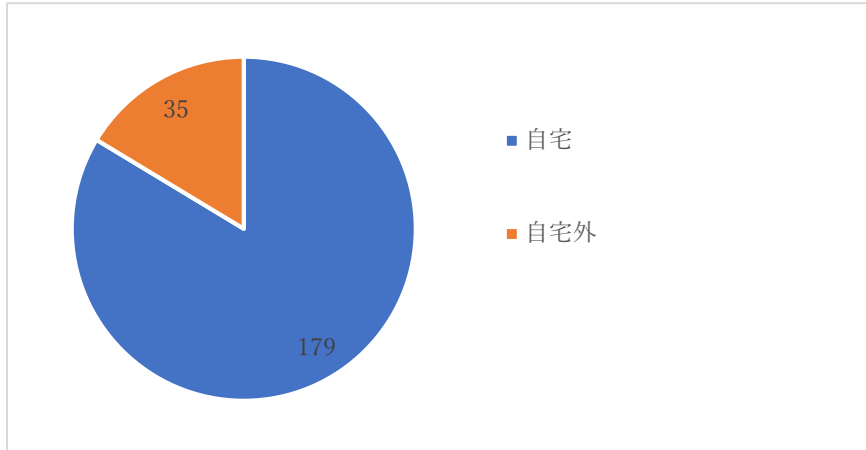
就職サポートして、求人情報の公開、説明会などの就職情報の伝達、就職の面接、エントリーシート、適性試験対策などの就職試験に対するサポートを求める声が高い。



## 第Ⅶ章 住居・通学

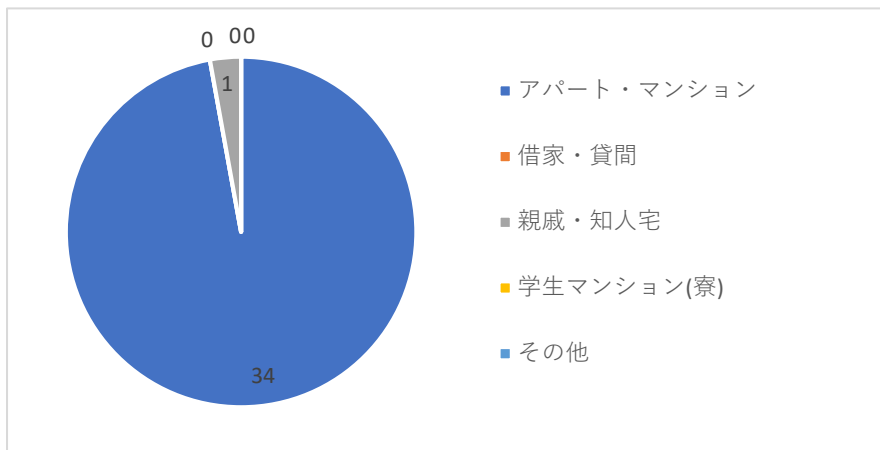
### 42. 現在の住居について

82%の学生が自宅から通学している。



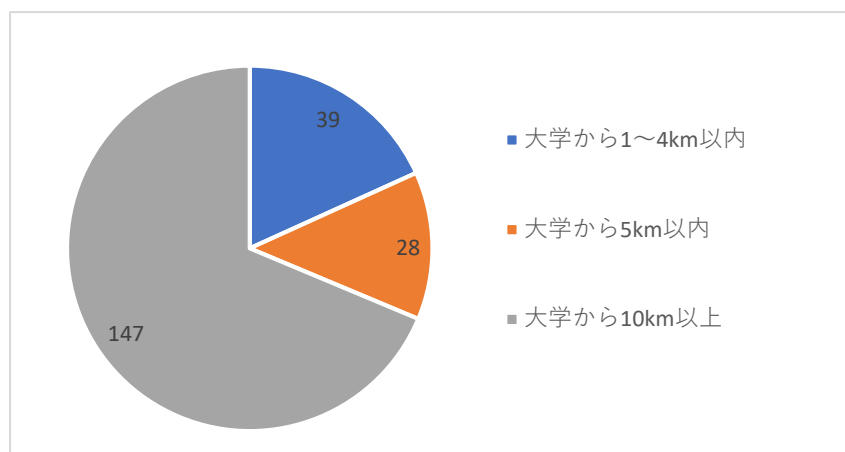
### 43. 生活形態について

自宅以外から通学しているほとんどの学生がアパート、マンションから通学している。



#### 44. 今住んでいるところは本学からどのくらいの距離ですか

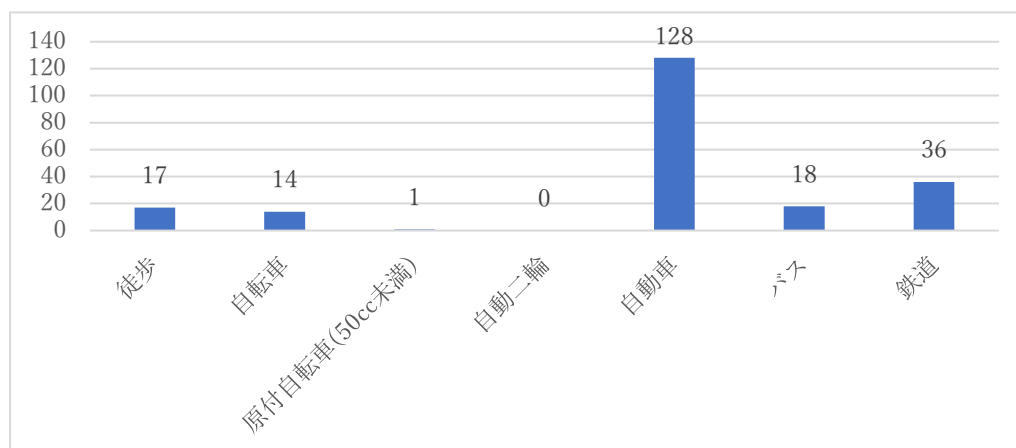
大学から 10km 以上離れたところに住んでいると回答した学生が、147 名/214 名中（68.7%）と約 7 割を占めており、残りの約 3 割の学生は、10km 未満の範囲に住んでいるという結果であった。



#### 45. 本学まで主にどんな交通手段を使っていますか

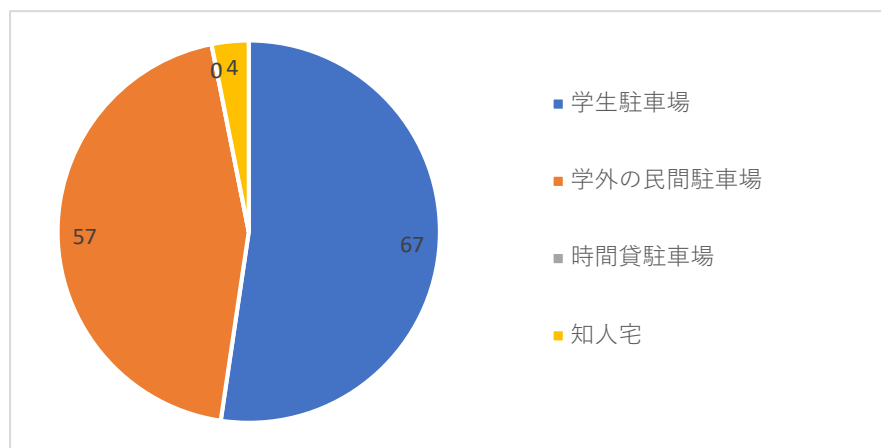
自動車との回答が 128 名/214 名中(59.8%)と約 6 割を占めており、次いで鉄道が 36 名/214 名(16.8%)となっており、バス 18 名・徒歩 17 名・自転車 14 名との結果となっている。

上記 44 の住んでいる場所が 10km 以上離れたところに住んでいる学生がいることから自動車や鉄道を利用している学生が多いことが考えられる。



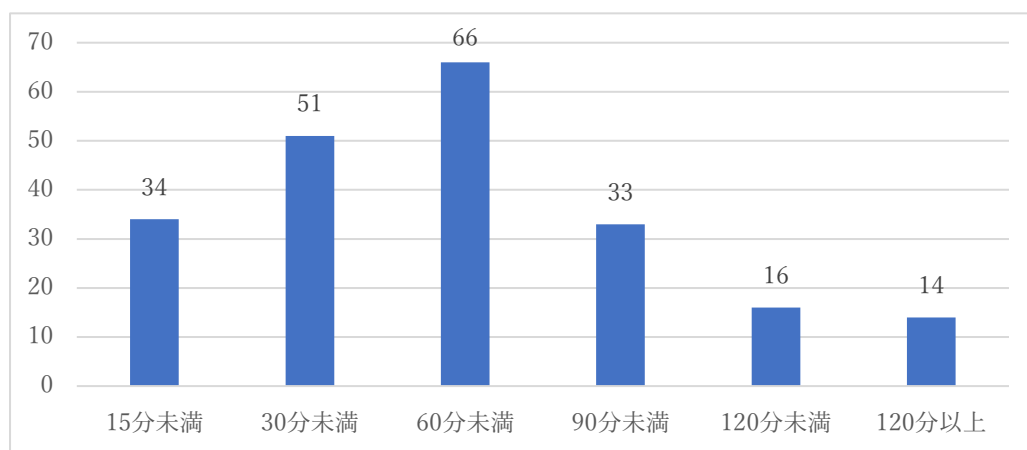
#### 46. 駐車場について

自動車との回答をした 128 名中、学生駐車場を利用していると回答した学生が 67 名(52.3%)とほぼ半数であり、残りの約半数の 57 名(44.5%)の学生は、「学外駐車場情報」などを参照し、学生が契約し利用しているという結果であった。また、残り 4 名は知人宅に駐車しているという結果であった。



#### 47. 通学所要時間について

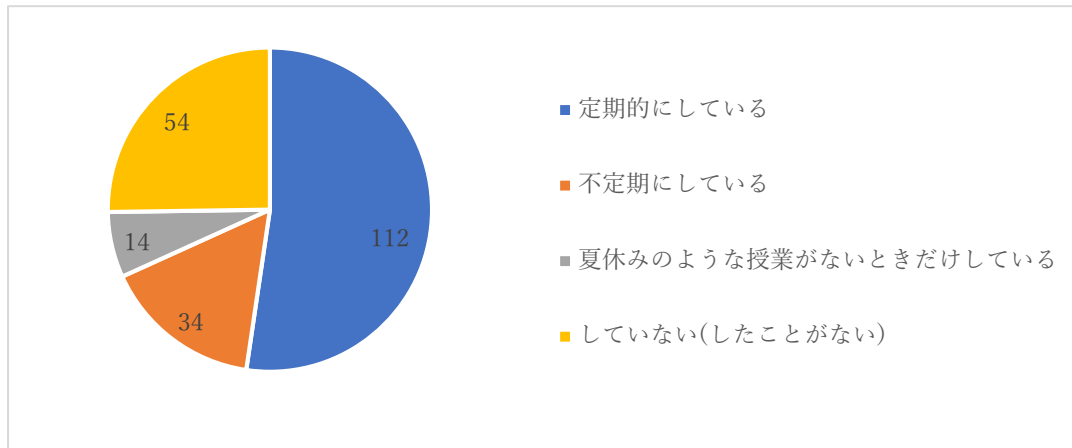
「60 分未満」と答えた学生が最も多く全体の 30.8%、「30 分未満」と答えた学生が次いで 23.8%であった。



## 第Ⅷ章 アルバイト

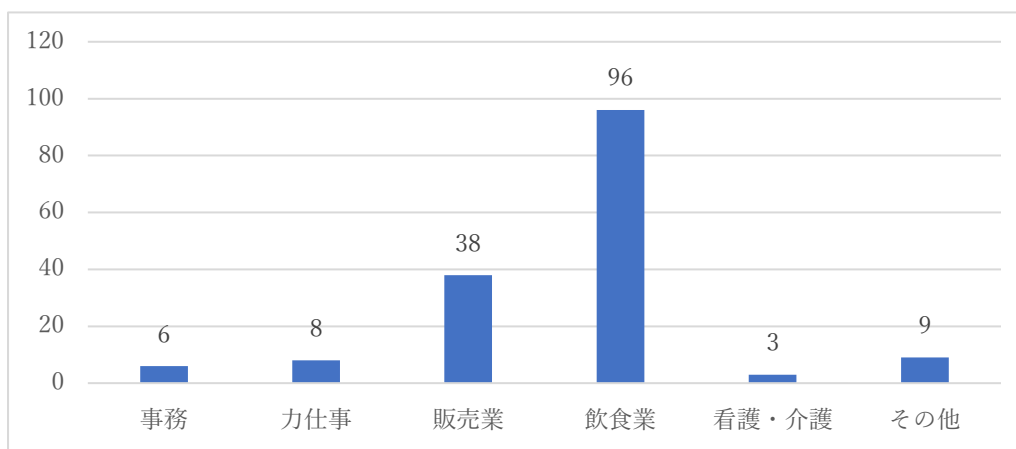
### 48. アルバイトの有無・頻度について

全体の 52.3%の学生が「定期的に行っている」と答えた。だが、していないと答えた学生が、25.2%と約四分の一を占めている結果となった。



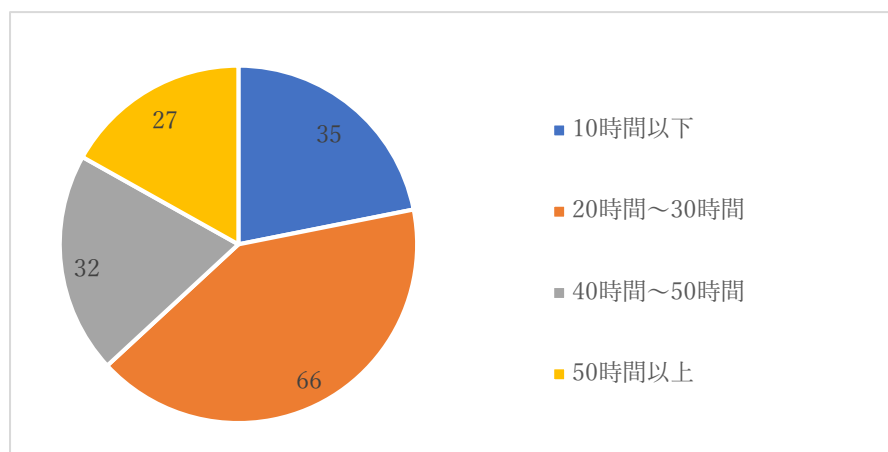
### 49. アルバイトの内容について

最も多く全体の 60%の学生が「飲食店」でアルバイトをしていることが分かった。次いで「販売業」でアルバイトをしている学生は 23.8%であった。



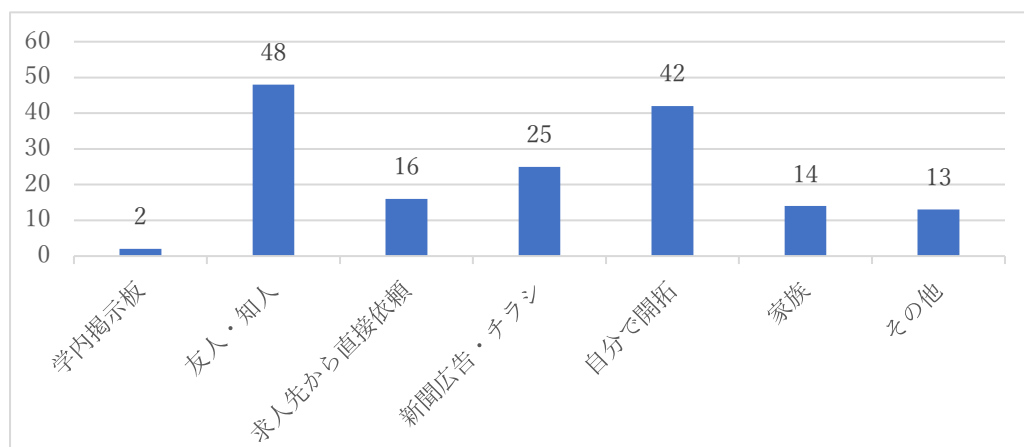
#### 50. 一か月の平均時間について

「20 時間～30 時間」と答えた学生が最も多く全体の 41.3%を占めた。また「50 時間以上」と答えた学生も 16.9%とやや心配な結果となった。



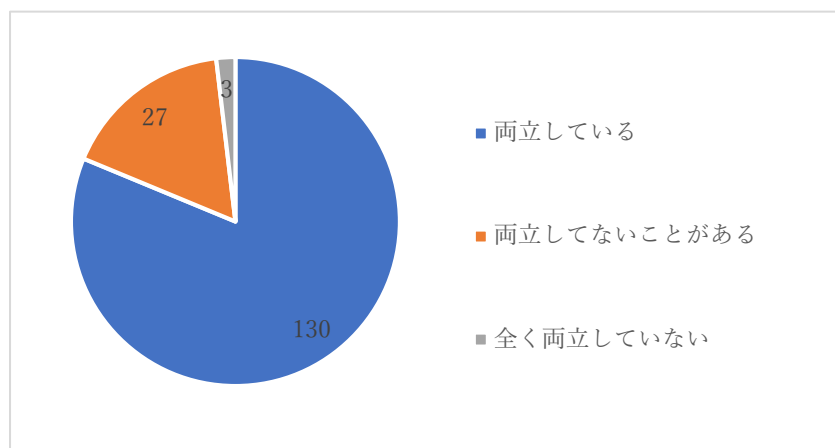
#### 51. アルバイト情報の入手手段について

「友人・知人」からと答えた学生が最も多く全体の 30%を占めた。次に多かったのが「自分で開拓」で 26.3%となった。この2項目で全体の 50%以上を占める結果となった。



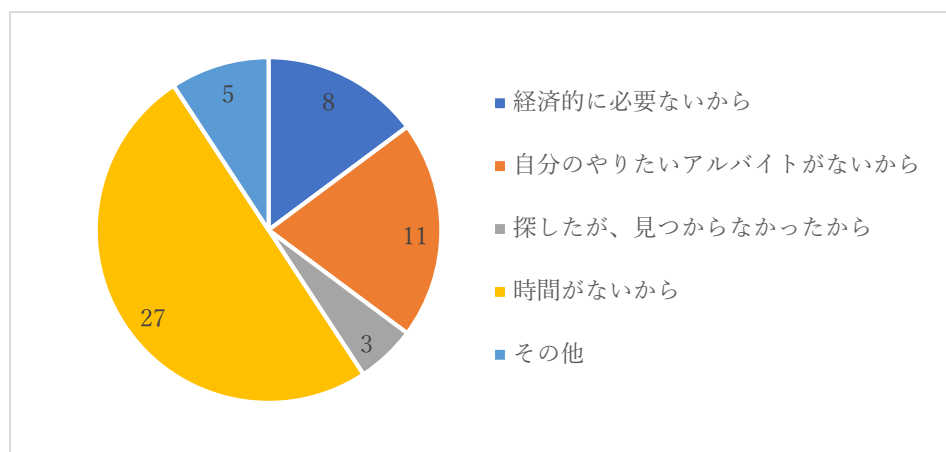
#### 52. アルバイトと学業について

「両立している」と答えた学生が 81.3%と、ほぼ両立ができている結果となった。しかし両立できていないと感じている学生も少数いるので、学業成績や修学状況と合わせて考えて行かなければならない。



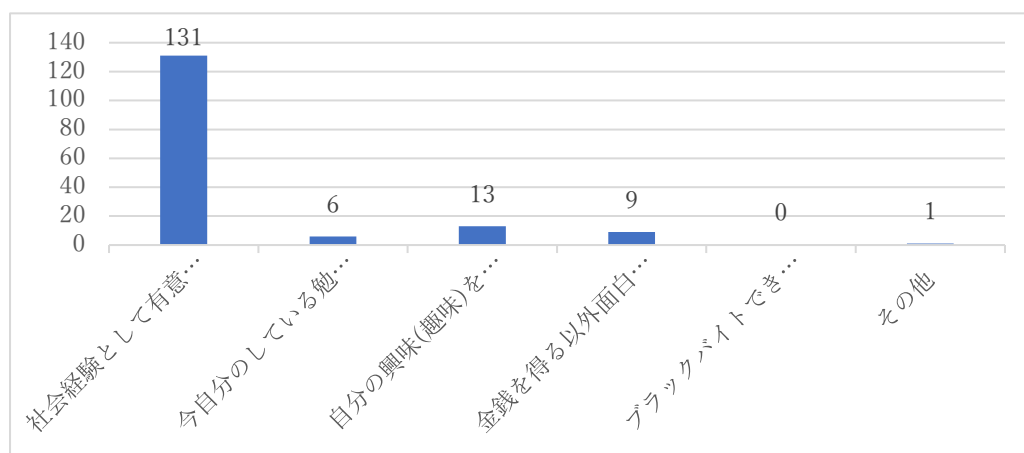
### 53. アルバイトをしない理由について

時間がないからが半数を占め、課題や予習を優先している学生がアルバイトをしていない可能性が高いと考えられる。



### 54. アルバイトをした感想について

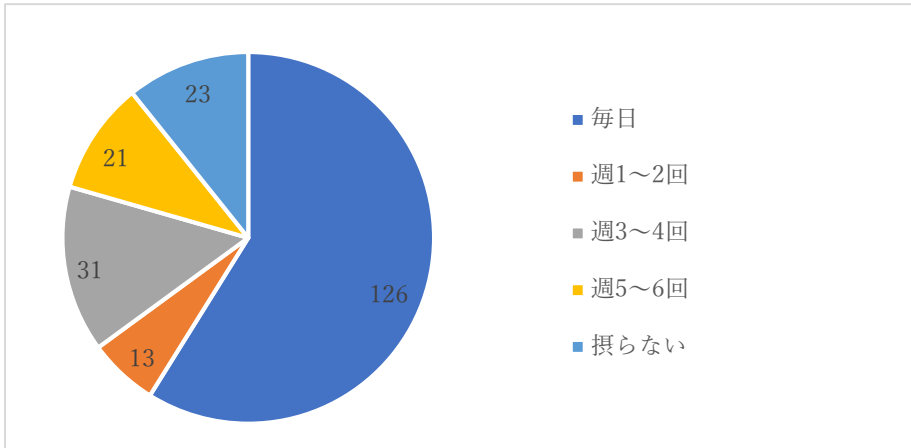
アルバイトをしている学生の大多数が社会経験として有意義だったと答えていた。これから社会に出る学生にとってアルバイトをすることは、良い経験になるということが分かった。



## 第IX章 食生活

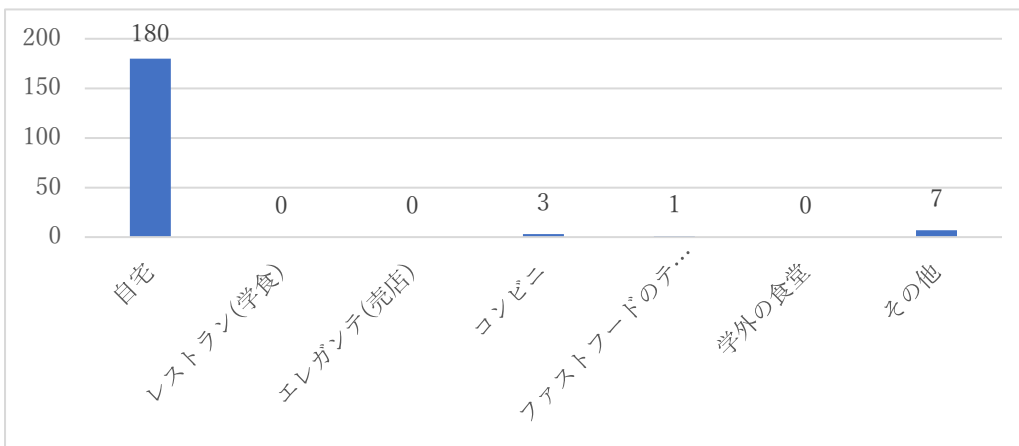
### 55. 朝食は摂っていますか

毎日摂っていると答えた学生が過半数であったが、それ以外に当たる欠食をしている学生も多くいた。この結果から、朝食摂取について指導する必要があると示唆された。



### 56. 朝食は主にどこで摂っているか

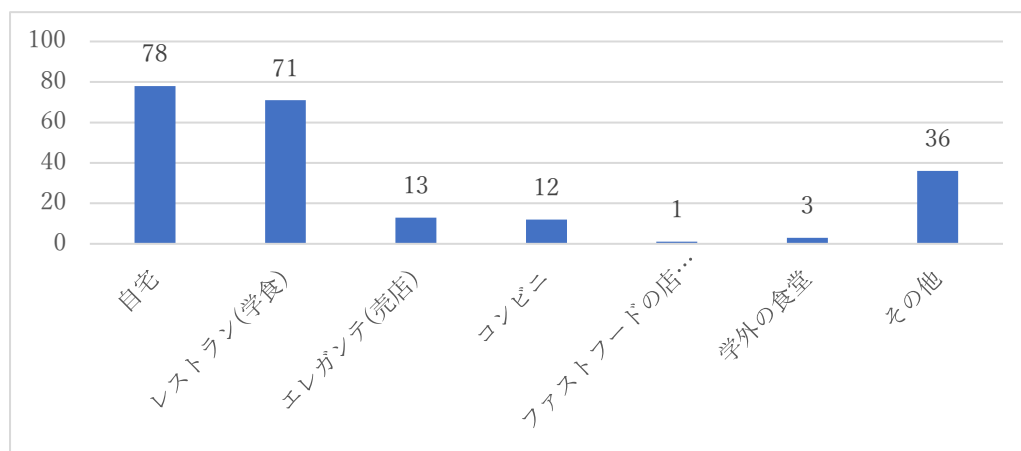
今回のアンケートに答えた学生の大抵が自宅に住んでいることもあり、「自宅」と答えた学生が94.2%という結果となった。



### 57. 昼食は主にどこで摂っているか

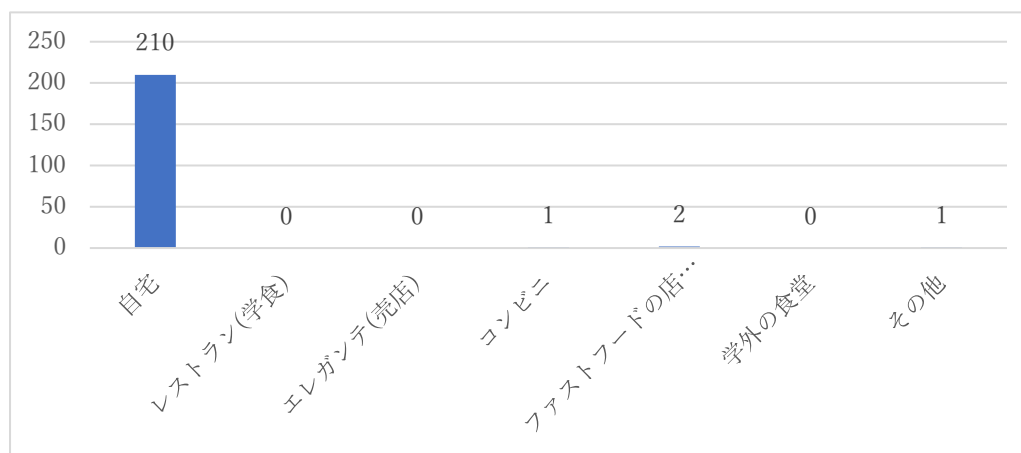
「自宅」で摂ってくる学生が 36.4%と最も多く、「レストラン(学食)」を利用する学生が 33.2%と僅差で 2 番目という結果となった。

「レストラン(学食)」や「エレガンテ(売店)」と言った 11 号館の施設が多いのはアンケートに回答した学生の所属学科の割合も影響していると考えられる。



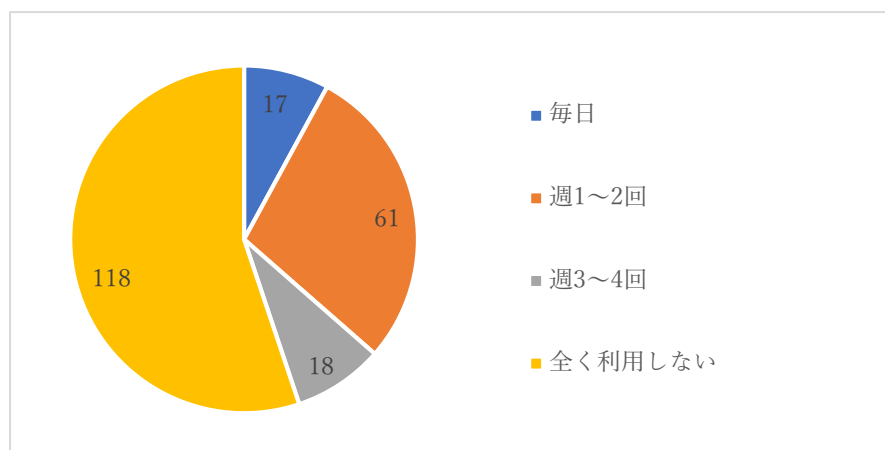
### 58. 夕食は主にどこでと摂っているか

ほとんど (98%) の学生が自宅で夕食を摂っていると回答した。



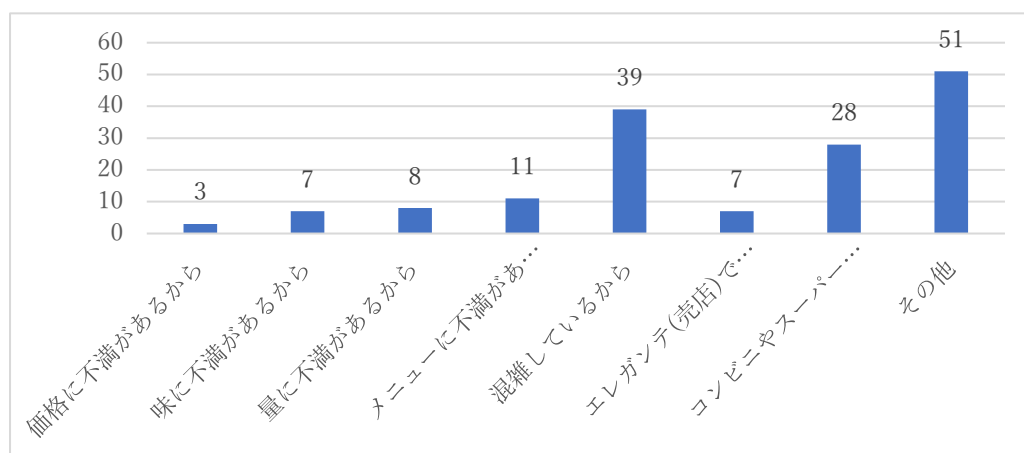
### 59. レストラン(学食)の一週間の利用頻度

毎日 (7%)、週 1～2 回 (28%)、週 3～4 回 (8%) 利用すると答えた学生に対し、55%の学生がほとんど利用しないと回答した。



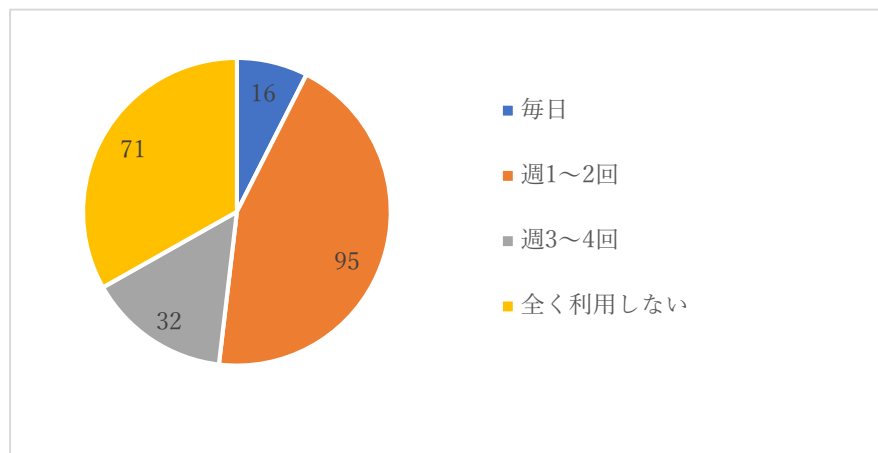
### 60. 利用しない理由

その他を除いて最も回答数が多かったのが「混雑しているから」(25%)であった。新型コロナウイルスの流行も少なからず影響していると考えられる。



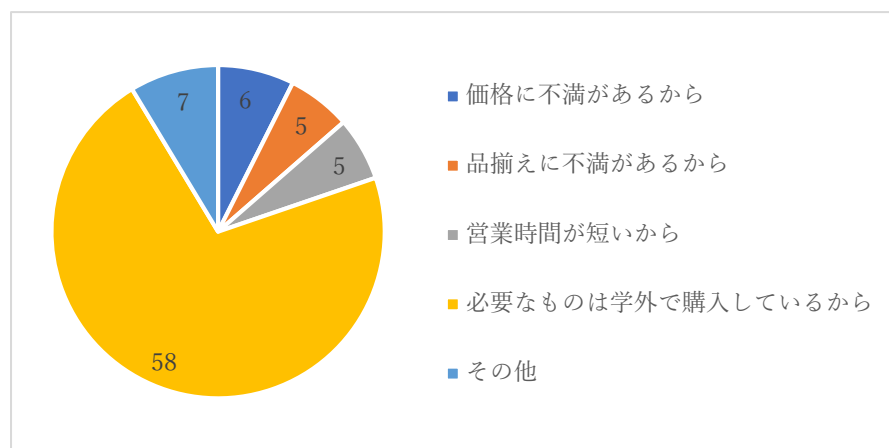
### 61. エレガンテ(売店)の一週間の利用頻度

「週 1～2 回」の利用者が最も多い回答であったが、「全く利用しない」が次いで 2 番目に多い結果であったことから、学生サービスとして、売店の利用者増加に向けた改善案、検討が今後必要と思われる。



## 62. 利用しない理由

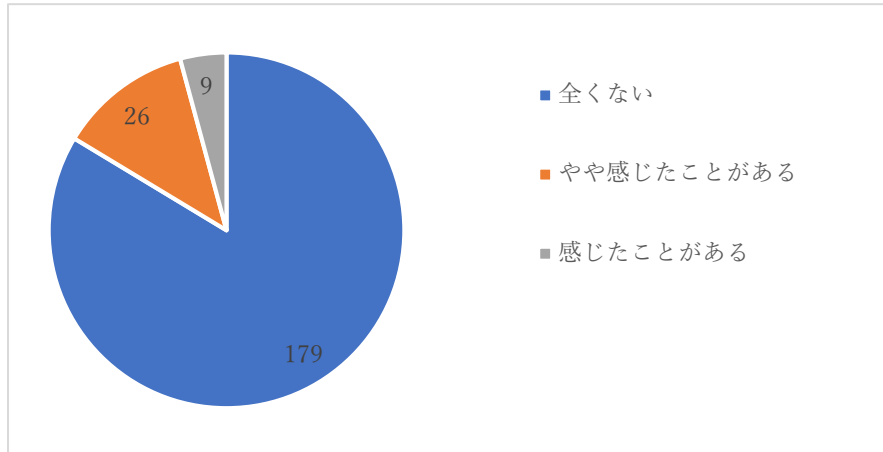
「必要なものは学外で購入している」が他の項目と比べて最も多く、営業時間や品揃え等に不満があるために利用していないという回答は少なかった。



## 第X章 その他

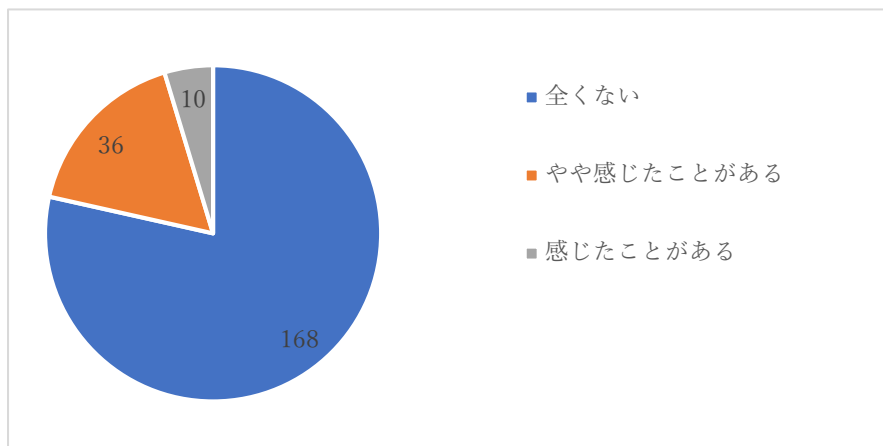
### 63. 外部の出入りによって身の危険や不安を感じたことの有無

「全くない」が最も多い結果ではあったが、「やや感じたことがある」「感じたことがある」に回答した学生もいることから、どのような場面、状況であったか、防犯に向け内容を把握する必要があると思われる。



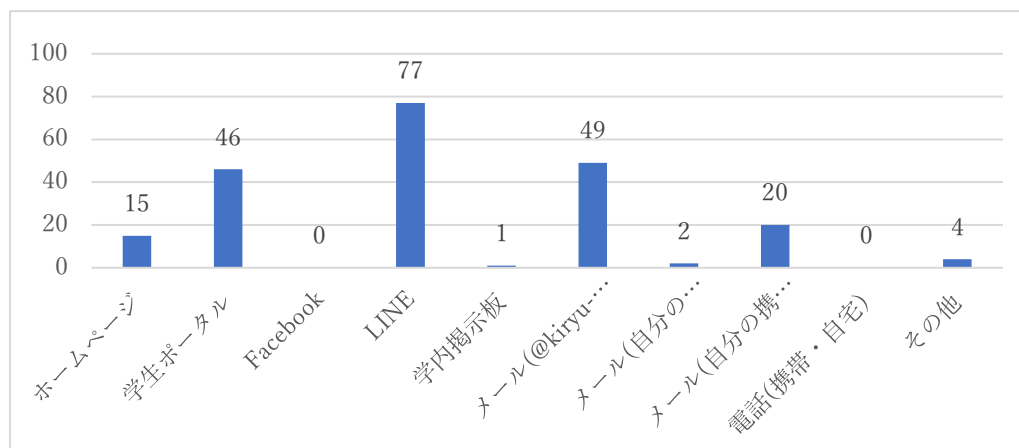
### 64. ジェンダーバイアスについて

「全くない」が最も多い結果ではあったが、「やや感じたことがある」「感じたことがある」に回答した学生のどのような内容であったかを把握し、改善を求めて行く必要があると思われる。



#### 65. 大学から連絡方法について

大学からの学生への情報の発信の媒体として（複数回答可）、77名の学生がLINEと回答していた。その次に大学メール（大学用のメールアドレス）49名、学生ポータル46名と続いた。電話（携帯・自宅）は0名であり電話での連絡は希望していないことが示唆された。



#### 66. 意見・要望

その他の意見として 26 名の回答があった。

# 卷末資料

## 1. 委員会構成メンバー

### 学生委員会

|        |                 |     |           |
|--------|-----------------|-----|-----------|
| 岩田 昇   | 医療保健学部看護学科      | 教授  | 学生委員会委員長  |
| 荒井 勝己  | 医療保健学部栄養学科      | 准教授 | 学生委員会副委員長 |
| 小林 葉子  | 医療保健学部栄養学科      | 教授  |           |
| 古賀 裕子  | 別科助産専攻          | 講師  |           |
| 寺村 サチコ | 短期大学部アート・デザイン学科 | 講師  |           |
| 中村 郁美  | 医療保健学部看護学科      | 助教  |           |
| 柏瀬 淳   | 医療保健学部看護学科      | 助教  |           |
| 須藤 侑加子 | 医療保健学部栄養学科      | 助教  |           |
| 井桁 千恵子 | 短期大学部生活科学科      | 助教  |           |
| 野村 亜希  | 短期大学部アート・デザイン学科 | 助手  |           |
| 鹿山 未優  | 短期大学部生活科学科      | 助手  |           |

### 事務

|          |        |
|----------|--------|
| 教務・学生課主任 | 小川 由紀子 |
| 入試広報課主任  | 高見 達也  |
|          | 島宮 拓也  |

# 2021 年度調査に向けての総括

今回の調査実施は、調査時期が 2 月 9 日～3 月 12 日と後期試験終了後～春期休暇であって、あるいは国家試験の直前・直後でもありました。大学から気持ちが離れている時期のため、学生ポータルサイトでのアナウンスだけでは本調査の周知が不十分であり、回答協力に関する必要性認識が乏しい等が影響したものと考えられます。一方、ポータルサイトでのアナウンス、Microsoft Forms を用いての調査実施など、ICT を利用した迅速で経済的な調査方法を初めて導入したものであり、このノウ・ハウを今後の調査での活かしていきたいと考えます。以上、学生たちの声をもとに教育内容、教育環境の整備および大学運営に活かすための基礎資料としてまとめました。

この他にもこの調査結果で集約された貴重な意見、施設改善、様々な要望に対し、可能な限り大学運営に生かしていきたいと考えています。